

2022年11月16日

報道各位

奈良県立医科大学

西日本初！閉塞性睡眠時無呼吸症候群への新規治療

「植込み型舌下神経電気刺激療法」を施行

複数診療科共同実施としては日本初の治療例

2022年11月15日、奈良県立医科大学附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科および呼吸器内科で、閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者への新規治療法である「植込み型舌下神経電気刺激療法」の西日本第1例目となる手術を実施いたしましたのでお知らせいたします。

【閉塞性睡眠時無呼吸症候群とは】

閉塞性睡眠時無呼吸症候群は睡眠中に上気道が閉塞して無呼吸を繰り返す病気です。その症状は日中の眠気、倦怠感、集中力低下、早朝頭痛、夜間頻尿などがあり、また、放置すると、高血圧、不整脈、狭心症・心筋梗塞、脳卒中などを引き起こす恐れがあります。患者自身が無呼吸に気づかないことが多く、そのため日本には潜在患者が約300万人存在すると推測されており、公共交通機関での居眠り事故などで近年その認知度が高まっています。

標準的な治療法は、睡眠する際に鼻にマスクを装着し圧のかかった空気を送風して上気道が閉じるのを防ぐ持続気道陽圧換気(CPAP:シーパップ)療法です。しかしながら、CPAPを様々な理由で継続できない患者が少なくなく、CPAPに代わる治療法の開発が長年の課題となっています。

【植込み型舌下神経刺激電気療法とは】

植込み型舌下神経電気刺激療法は、片側の舌下神経を睡眠中にのみ直接刺激し、舌を前方に移動させることで上気道が閉じるのを防ぐ治療法です。CPAPをうまく使用できない患者に対しての新規治療として、2014年に米国FDA*1で承認され、2022年4月現在、欧米ですでに2万人を越える患者さんに導入されている治療法です。我が国では、2021年から健康保険の適用対象となりました。

植込み型舌下神経電気刺激療法は、全ての患者さんにこの治療法が効果を発揮するわけではなく、丁寧に治療効果が期待できる患者さんを見極めることが重要になります。

奈良県立医科大学附属病院では、呼吸器学会指導医と睡眠学会専門医の資格を有する呼吸器内科医(山内基雄准教授)が患者さんの背景や睡眠検査を詳細に評価し、効果が期待で

きる症例であることを確認し、その後外科マスター資格^{※2}を有する耳鼻咽喉・頭頸部外科医（上村裕和准教授）が植込み術を丁寧に行いました。

このようにそれぞれの領域の専門医師が協働して本治療法を行ったのは、日本では奈良県立医科大学附属病院が初めてであり、最大限の本治療法の効果を発揮するためには極めて重要なポイントであると考えます。

【用語解説】

米国 FDA^{※1}

食品や医薬品、医療機器、動物薬、たばこ、玩具など、消費者が通常的生活を行うに当たって接する機会のある商品について、輸入許可や違反品の取締りなどの行政を専門的に行う米国の機関です。米国国内で FDA 対象商品を販売する際には、FDA からの許可を取得する必要があります。

外科マスター^{※2}

当院では、医師・歯科医師の中で「優れた外科手技を持つ者」に対して「外科マスター」の称号を付与する制度を設けており、これまで 8 名の医師と歯科医師に称号付与を行っています。

この報道資料は、奈良県政・経済記者クラブ、橿原市政記者クラブ、および大阪科学・大学記者クラブの皆様にお届けしています。

【本件に関するお問い合わせ先】

公立大学法人奈良県立医科大学 総務広報課 大井

TEL : 0744-22-3051(内線 2805)

MAIL : koho@naramed-u.ac.jp

呼吸器内科学 教授 室 繁郎

MAIL : smuro@naramed-u.ac.jp

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘

MAIL : tkitahara@naramed-u.ac.jp